

【授業の到達目標と概要】

保健社会学とは、健康の保持増進を対象とした社会学である。ここでの社会学とは、人と人とのつながり・人間関係について明らかにしようとするものである。そもそも人々が健康について考えるとき、人とのつながりのなかで、何を問題とするか、何を幸せととらえるかが大きく影響している。また、健康の要因として、食事や運動もさることながら、人と人との支えあいや絆の影響がこれまで思われていた以上に大きいことがわかってきている。保健社会学では、このような健康と人とのつながりの強い結びつきをつくっている人々の意識や行動を、どのように測定・把握できるのか、そして、それらの結びつきがどのように生じているのかについて学習する。

【授業計画】

- ①② 保健社会学の対象と方法、健康と病気の捉え方
- ③④ 人のつながりと健康格差とヘルスプロモーション
- ⑤⑥ 人のつながりによるストレスとサポート
- ⑦⑧ ヘルスコミュニケーションとヘルスリテラシー
- ⑨⑩ つながりとエビデンスとナラティブ（語り、物語）
- ⑪⑫ 情報化社会におけるつながりと情報に基づいた意思決定
- ⑬～⑮ まとめ

ただし、履修者の関心によって、あるテーマを中心的に扱ったり、人のつながりの測定の方法の講義とディスカッションを中心としたりするなど、項目や時間配分を変更する。

【授業外学習】

授業時に提示する資料や参考書の講読を行うこと。

【成績評価の方法・基準】

出席状況とレポート

【教科書】

資料を配布する。

【参考書】

- ・山崎喜比古編：健康と医療の社会学，東京大学出版会.
- ・中山和弘他編：患者中心の意思決定支援－納得して決めるためのケア. 中央法規.
- ・戸ヶ里泰典・中山和弘編：市民のための健康情報学入門. 放送大学教育振興会.
- ・東京大学医学部保健社会学教室編：保健・医療・看護調査ハンドブック. 東京大学出版会.